

金魚の光と影



ここはどこでしょうか？

ここは、アートアクアリウム (art aquarium) という金魚の美術館です。ここは、普通に金魚を見るところではありません。「光」「影」「音楽」「日本文化」を感じながら、金魚を見ることができます。照明やプロジェクションマッピング (projection mapping)

を使って、「光」と「影」を表しています。水の音を流しながら「音楽」を楽しむことができます。そして、日本のガラス、着物、陶器、建築を取り入れて、「日本文化」も知ることができます。いつもとは違う世界にいるように感じてください。





金魚は、200年ごろに中国で生まれました。フナという魚から突然、種類が変わって金魚が生まれたのです。日本へ来たのは、1500年ごろです。当時は、お金持ちの間で人気がありました。1700年ごろになると、普通の人々の間でも、育てられるようになりました。その理由は、侍がお金をかせぐために、金魚を育てて増やし、

金魚の値段が下がったからです。現在でも日本では、多くの家庭で金魚をペットとして育てています。

最初、金魚は突然の変化で生まれました。その後、もっときれいな金魚が見たいと思った人が、新しい色や形の金魚を作りました。オーストラリアのある大学が金魚を川に放



フナ

して、十数年間観察する研究をしました。その結果、魚は川でフナのような色に変わり、体もフナのように大きくなったそうです。金魚は、人が育てなければ、

祖先、つまり、フナに戻ってしまうようです。そして、金魚は人が作り出した魚なので、川に放すと、生態系を壊すかもしれません。

赤い金魚、白い金魚、黒い金魚。目が大きい金魚、頭が大きい金魚、お腹が大きい金魚。今も、たくさんのきれいな金魚がいますが、将来、見たこともないようなもっときれいな金魚が作られるかもしれませんね。



(724 字)

(2021.9 Written by Wakiko FUTAKUCHI)

<参考資料>

・「ART AQUARIUM」ウェブサイト

<https://artaquarium.jp/>

・「YAHOO! ニュース」ウェブサイト「夏の風物詩・金魚は、いつから「ペット」になったのか? 意外と知らない歴史秘話とは」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/eb12a7f401545d46816418b73b8c04c308d63e47?page=1>

・「withnews」ウェブサイト「金魚が野生化すると…巨大化、驚きの繁殖力「最も厄介な生物の一つ」」

<https://withnews.jp/article/f0161228002qq0000000000000000W02310701qq000014481A>

(2021.9.27 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典 : 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.